

生産者の声

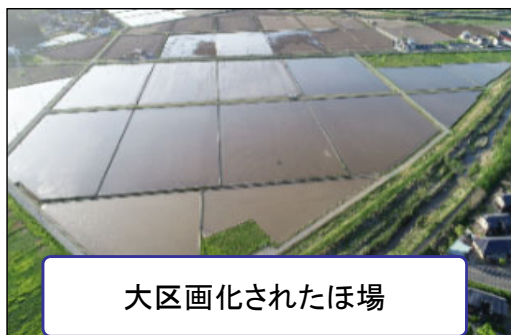
(株)飯崎生産組合

原発事故直後は「故郷をなんとかしたい」という想いから、他の組合員2名と避難先から通いながら草刈りを開始。ほ場整備により導入可能となったスマート農業も軌道に乗り、「自動操舵トラクタの自動運転は作業後の疲れが今までと違う。オペレーターの心理的疲労感も和らぐ」などと導入の効果を話す。



◆地区の目標◆

- 大区画ほ場を整備
- 農地の集約、経営の大規模化
- ⇒収益性が高い、持続可能な農業を目指す



大区画化されたほ場

◇事業の概要◇

- 事業工期 平成26年度～令和6年度
- 総事業費 30.0億円
- 受益面積 107.4ha
- 主要工事

整地工	A=107.4ha
(区画整理)暗渠排水工	A=103.8ha
用水路工	L=14.4km
排水路工	L=21.3km
道路工	L=14.9km

地域の課題

小区画のほ場 / 所有地が散在 / 狭小な農道 / 用排水路未整備

- 小区画のほ場(平均10a程度)及び幅員が狭小な農道であるため、大型農業機械等による効率的営農が困難。
- 用排兼用の土水路であり、水管理に労力を要する。
- 避難指示により地域農業者が減り、営農再開が困難な状況となった。



整備前の小区画なほ場



整備前の土水路

事業のポイント!

浜農業の未来を拓く先駆けプロジェクト / 高収益作物に対応したほ場整備

■「浜農業の未来を拓く先駆けプロジェクト」

ほ場整備を契機に発足、ハード事業とソフト事業を集中的に導入し連携することで、旧避難指示区域の営農再開を加速化。

ハード事業

ソフト事業

- ・ 担い手の法人化の支援
- ・ 農地バンクによる集積の支援
- ・ 作物生産技術の指導
- ・ 農業機械リース事業
- ・ 鳥獣害防止対策事業
- ・ スマート農業実証事業

- 高収益作物(ブロッコリー)の作付に対応するため、田の耕土深を20cm確保。



営農再開状況



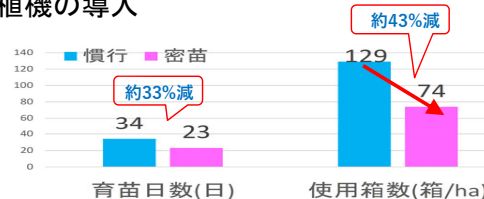
ブロッコリーの収穫

事業の効果

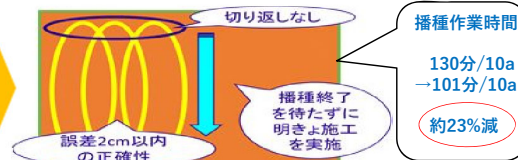
スマート農業化 / 担い手等へ農地の集積促進

■スマート農業の実施状況

○密苗GPS直進アシスト田植機の導入



○自動操舵トラクターによる大豆播種



○スマート農業の実施状況 【(株)飯崎生産組合】

【作業の省力化】・【労力の分散化】

密苗、乾田直播、GPSアシスト田植機、ロボットトラクター水管理システム、リバーシブルプラウ、GPSレールドローン防除など

【生産の安定化】

リモートセンシング(ドローン)、可変施肥、生産管理システムなど

■担い手と営農の状況

ほ場整備を契機に・・・

- ・ 有志農家が「(株)飯崎生産組合」を設立。
- ・ 農業法人「I Love Farm おだか」が高収益作物(ブロッコリー)の生産を開始。